

## 6-4 化学物質過敏症患者による 化学物質過敏症患者のための憩いの場 「はなちゃんカフェ」を経営 伊藤香さん

### ■支援・情報交換の場として自宅を開放

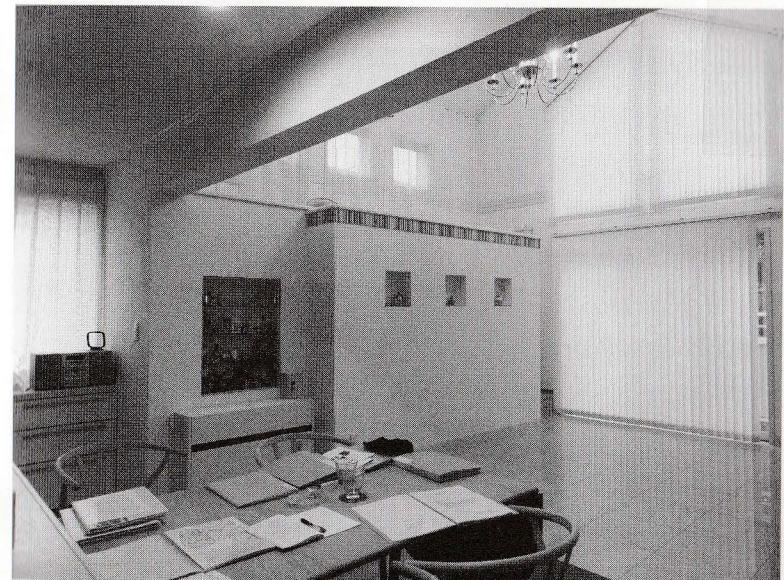
「本人は死にたいと思い、周りは死んでくれと思う。そして、実際に死んでしまって、周りは良かったと言う」(化学物質過敏症〈MCS〉を苦に自殺した女性の夫の言葉) 理不尽な現実。また、家族に理解されない苦しみから、3歳の娘を刺して自殺を図った MCS 女性の自殺未遂事件。

こんな事件を耳にするにつれ、「MCSのために家族がバラバラになるのが悲しい」と心を痛めてきた伊藤 香さん。自身 MCS と電磁波過敏症 (EHS) の彼女は、「自分の体験が少しでも役にたつなら」と自宅を開放して、患者の支援と情報交換の場「はなちゃんカフェ」を 2017 年から開いています。

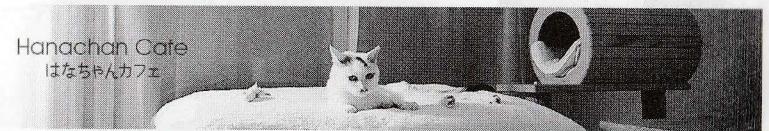
### ■剥離剤への曝露から 4 年間の避難生活へ

2012 年 10 月、香さんと夫は自宅床のフロアマニキュア剥離作業に使われた剥離剤のために強度の MCS に。彼女は銀行員の仕事を辞めざるを得なくなりました。その後約 4 年間は自宅にも戻れず、仮住まいを余儀なくされます。その間の同年 12 月には、仮入居マンションで有害物質トルエンジイソシアネートに曝露。MCS は悪化し、五感全てが過敏になります。

2014 年 3 月には、別の仮住まいでの EHS も発症。事故当時、妊娠を始めたばかりでしたが、事故後はエストロゲンが検出できない状態になり、妊娠も諦めざるを得なくなりました。そんな体験をしている彼女だけに、MCS ゆえの悲劇は人ごとではないのです。カフェには 100 を超える本・資料も。



「はなちゃんカフェ」の室内



「はなちゃんカフェ」という HP も運営  
名前の由来となった「はなちゃん」(猫)の写真が迎えてくれる



香さんが外出する際に持参するバッグ  
ヘルプマークと電磁波過敏症のマークは必ずついている